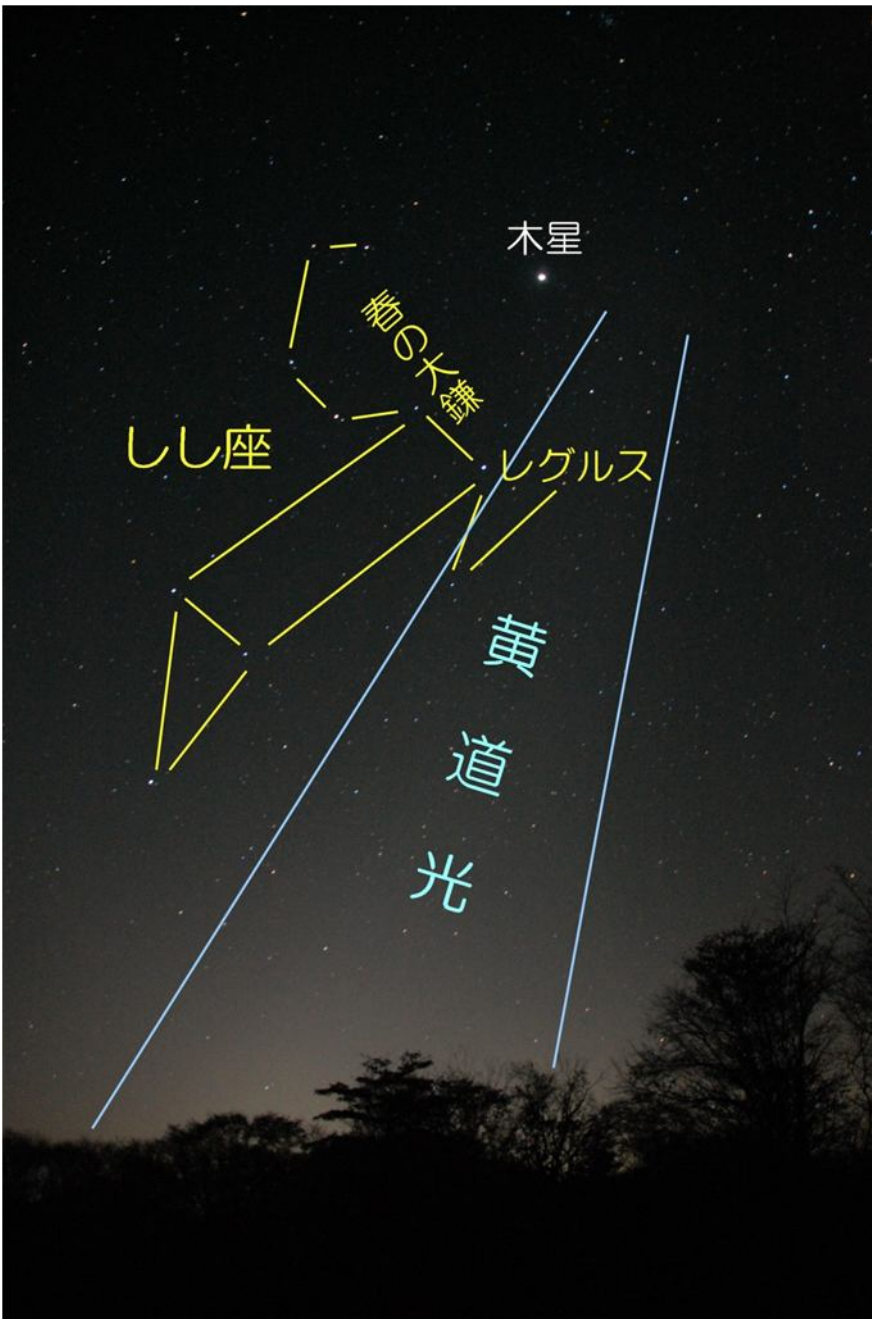


「黄道光を観る・撮る」

明け方の日の出前の東の空、夕方の日没後の西の空に、ほのかに明るい光の帯が見えることがあります。「黄道光(こうどうこう)」といいます。太陽本体や、その直接の反映(夕焼けや朝焼け)ではなく、真っ暗な空・・・地平線に近い場所に見えます。天文薄明(日の出の約1時間半前から・日没後1時間半以内)もない時間帯にしか見えません。黄道光は、黄道(太陽の通り道)付近に集中した、宇宙の塵(たとえば彗星の尾の構成物)に、太陽の光が乱反射して見える現象です。

黄道光は、宇宙の微粒子に当たった「太陽光のかげら」が集まったものです。従って、明るさは実にバカみたいに暗いです。「天の川の暗い部分と同じぐらいの明るさ」と形容されます。当然、天の川が見える暗さの土地でなければ、観望は絶望的です。北軽井沢でも、肉眼で黄道光が見えることは稀で、写真撮影もなかなか成功しません。



秋は「明け方の黄道光」が観望しやすい時期です。黄道光は黄道に沿って見えますので、当然、黄道12星座の近くに(または星座をかぶるように)見えます。秋の明け方に東の空に見える黄道星座は、「しし座」です。

明け方の黄道光が見えるのは、日本では、日の出2時間前から1時間半前に限定されます。もっと空の暗い未開の砂漠なら、黄道一周につながった黄道光が見えるそうです。真っ暗な土地に行き、そういう黄道光を観てみたいです。

「しし座と黄道光」(解説図)
春の東の空を駆け昇る姿が、しし座のすばらしさ。その右側に、淡く長細く見える光芒が黄道光です。



「しし座と黄道光」

黄道光は非常に淡いので、肉眼ではなかなか見えません。この写真は、目で見た様子に近い写り方をしています。北軽井沢押切場（おしぎっぱ） / 撮影；C.Tanaka

（お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋）